

福井の幕末明治 歴史秘話

<第7号>

平成28年4月19日発行

由利公正をめぐる早慶戦～早稲田、慶応の創始者と由利との関わり～

今回は、由利公正をめぐる早慶戦。とはいっても大学野球ではなく、早稲田大学と慶応義塾大学をそれぞれ創設した大隈重信、福澤諭吉と由利公正の関係についてご紹介します。

まずは、大隈重信と由利公正。二人は、明治新政府の財政を担当し、それぞれの政策は二人の名前をとって「由利財政（慶応4年～明治2年）」「大隈財政（明治2年～4年）」と言われています。二人は共に明治初期の財政の危機を乗り越えた貢献者ですが、財政に対する考え方は大きく異なっていました。

由利は横井小楠の国富論に学び、市中に資金を供給することで国全体の産業活動を活発化させることを目指し、太政官札を発行しました。混乱期の通貨供給の手段として重要な役割を果たした太政官札でしたが、外国公使からは、太政官札が不換紙幣であること、乱発により信用が低下すること等の懸念が示されました。外交官出身で外国の矢面に立たされた経験を持つ大隈は、外国との関係に重点を置き、由利の後の財政担当として、幣制の確立などを行っていきました。



大隈重信肖像

次に、福澤諭吉と由利公正。二人は、近い関係にあったと言われています。由利の長男、丈夫は福澤の姉の子（姪）と結婚しています。また、福澤が演説専用の「明治会堂」の建設（明治14（1881）年完成。後に明治生命や専修大学発祥の地ともなります。）にあたり、東京府知事を勤めた由利の洋式邸宅（築地木挽町（現 銀座））を購入していますが、これは二人の親密な関係があったからと言われています。



福澤諭吉肖像

また、福澤は、明治13（1880）年、「交詢社」を創設します。「交詢社」は、学校教育を終えた社会人を参加対象とする日本最古の社交機関です（現在も活動を継続しています）。めざましく変化する実社会に対応するため、各人が互いの知識を交換し合っ、流動する社会の実務に対処する機会を提供しようとしたのが設立の目的でした。由利は、実学を重視した福澤の考えに賛同し、三井中興の祖中上川彦次郎などととも、「交詢社」常議員にその名を連ねています。

大隈と福澤、二人の由利との関わりを見ると、明治という新しい時代の日本をどう導くか、考え方の違いが現れてきます。

～幕末ふくい歴史紀行～

[明治会堂・専修大学発祥の地]

・福澤諭吉らにより建築された演説会場「明治会堂」。由利公正の洋式邸宅を取得し作られました。ここは、その後、明治生命、専修大学発祥の地ともなります。今は、歌舞伎座裏の松屋通り沿いに「専修大学発祥の地」記念碑が残っています。

住所：東京都中央区銀座三丁目（歌舞伎座裏）（東京メトロ日比谷線東銀座駅すぐ）



明治会堂之図
（専修大学所蔵）

★お知らせ 江戸時代、足羽川を渡るために武士たちが使った「毛矢の繰舟」を再現！

- ・4、5、6、8、10月の主に第1・3土日に、足羽川九十九橋上流舟着場で開催中。開催時間は10時～16時。
- ・足羽川を優雅に渡る姿は福井城下図屏風にも描かれています。由利公正などが利用したとされる繰舟。足羽川の景色と歴史を、舟上から堪能しよう！ゴールデンウィークは5月3、4、5日も開催します！